

## 飯島賢二の『恐縮ですが…一言コラム』

### 第 487 回 ビジョンなき政治、ビジョンなき経営

2012.8.26

「終わりから始めなさい！ゴールを設定すれば、“成功するためにすべきこと”が見えてくるから」……ハロルド・ジェニン（英：Harold Sydney Geneen、元 ITT (International Telephone and Telegraph) の社長兼最高経営責任者）の言葉である。

政治でも、経営でも、この H ジェニン氏の言葉を全く解さないリーダーが、あまりにも目立つようになった。

今はこうだが、3年後、5年後にはこんな会社(国)になりたい、だから今、頑張ろう！！ビジュアルで、分かり易い「将来の姿」が見えれば、みんなその方向に向かって努力する。ベクトルがひとつになり、今、耐えることが、潜在的な喜びになるかもしれない。

もし、これがなかったら…

やること全てが「場当たり」になるだろう。

直前に迫った問題を解決することで精いっぱい、ただやみくもに忙しいだけで、どこへ向かって動き出すのか分らず、不安と不信が蔓延し、体力もいずれは痩せ細ってくる。会社経営で、この戦略やビジョンがない限り、目先の仕事に終始するだけである。

いきなり「この問題をどうするか」の会議が始まり、とりあえずの対処法で、あわただしく動き始める。明確なビジョンがあれば、あるいは、その問題自体、対処する必要がなかったかもしれない。これこそ Disuse Meeting (不要な会議)、非効率の最たることで、効果が挙がらなかった時の従業員の失望感、想像を絶するものがある。

しかもこの類の経営者、その従業員の失望感すらわかっていない。

政治も全く同じ、民主党の3年間は正にこれに近いものがある。

百歩譲って、ビジョンがなかったわけではないと言ってもいい。

しかしこのビジョン、あまりにも優等生、現実無視の理想主義だから、かえってタチが悪い。劣悪な環境を作ったのは自民党、それを直そうとしている「おれたちは間違っていない」、民主党幹部は、大臣になった途端、みんな同じ顔になってしまう。

国民の生の声を聴くというパフォーマンスには長けているが、誰ひとり、インプットしようとしな。野田佳彦以外、そんな心を持った幹部は見当たらない。彼が必死にもがこうとも、何ら変わらぬ民主党、逆の意味で「裸の王様」状態の首相が哀れに見える。

目指すべきビジョンが現実ととてつもなく乖離し、大多数の日本人への優しさを欠いている。お仕事として淡々と処理し、労りや思いやりの情を感じたことがない。「仏作って魂入れず」とは、この政党にピッタリの言葉である。そのくせ、政治家としてのスーパースキルを持ちえない、素人集団だから、官僚の力を著しく増長させた。

「近いうちに…」という。ならば、民主党の3年間は、こんな総括では言いすぎか？

ビジョンなき政治、ビジョンなき経営は国や会社を滅ぼす…とは、古今東西絶対の「真理」であること、もう一度、肝に銘じるときが迫っている。